



## 活動報告

部活動やコンテスト、英語ディベートなど、本校で課外活動を頑張っている生徒たちをご紹介します。

## 2024年度『井上円了が志したものとは』

東洋大学長賞：

北村 涼奈（進学コース1年） 「円了から学んだ主体性」

優秀賞：

後藤 ほのか（進学コース1年）「自主の力 ー井上円了の考えを現代へー」  
 紺野 紇仁（進学コース1年）「井上円了の目指したもの（チャレンジ精神の大切さ）」  
 下居 沙希（進学コース1年）「なぜ哲学だったのか（～現代に通用するもの～）」  
 石井 沙綾（特別進学コース1年）「妖怪のごとく立ち上がり ー独立自活の精神ー」

『東洋大学の創立者井上円了に触れ、感じたこと、考えたことを文章にしてみよう』

この作品募集は、東洋大学生対象の「東洋大学生の部」、一般の方対象の「一般の部」、附属三校生徒対象の3つの「高等学校の部」、麹町学園女子高等学校対象の「高大連携校の部」の計6部門で行なわれました。応募作品総数1951篇。厳しい審査を経て入選作品が決定されました。（「井上円了哲学センター」より）



## ロボカップジュニア「サッカー」

茨城ブロック 2月16日(日)

茨城ブロック 優勝

島根 夢之進(進学コース1年)  
 藤原 楓日(特別進学コース1年)



ロボカップは、自律移動型ロボットによる競技会。真に人間社会に役立つロボット技術を育成することを目的とした、国際プロジェクトで、世界35カ国から競技者が集まります。

ロボカップジュニアは、19歳以下の子どもたちが対象です。「レスキュー」「サッカー」「オンステージ」の3種の競技を通して、ラジコンのような人の操作によって動くロボットではなく、自分で考えて動く「自律型ロボット」を製作する力とともに、プレゼン力やコミュニケーション力も育めます。本校生は「サッカー」部門での参加です。自分たちでプログラミングしたロボットが、ゴールを守ったり敵のゴールを狙ったりします。センサー内臓なので、自分で考えて動くロボットの様子に、思わず見入ってしまいます。次は全国大会です！

## 歴史部60周年イベント

2月8日(土)

本校の伝統的な部活動である「歴史部」が60周年イベントを開催しました。1期生から現役部員61期生まで、約90名が集まりました。1期生は御年78歳。祖父母から孫までの三世代交流会です。初代顧問の岡田先生は5年前に他界されていますが、交流は今も続いています。久しぶりの学校に、卒業生のみなさんも笑顔が絶えませんでした。



▲老いも若きも歴史部！ 集合写真

## 英語ディベート

◆第10回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会  
(2024年12月24日,25日)

授業導入優秀賞

大井 すみれ(特別進学コース2年)  
 金子 勇生、鈴木 花麟(中高一貫コース1年)

◆文部科学省・外務省後援 (2025年1月23日)  
第10回PDA高校生パラメンタリーディベート世界交流大会  
ベストディベーター賞

大井 すみれ(特別進学コース2年)

◆第14回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯  
第7回茨城県大会 (2025年1月26日)

奨励賞

大井 すみれ(特別進学コース2年)  
 高島 伊吹(中高一貫コース2年)  
 松井 文音(グローバルコース2年)  
 金子 勇生、鈴木 花麟、阿久根 涼祐、板垣 直希、  
 川崎 こころ、高野 楓羽(中高一貫コース1年)

本校生徒が「第10回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会」に出場し、本校は授業導入優秀賞を受賞しました。授業導入賞は、一般生徒向けに学校全体として即興型英語ディベートの授業を導入している学校を称える賞で、本校における日頃の英語の授業でのディベート活動を取り入れた実践やスピーキングテスト、校内での英語ディベート大会の開催などが評価され、受賞となりました。この結果を受け、1月に大阪府で開催された「第10回PDA高校生パラメンタリーディベート世界交流大会」に出場しました。世界大会は、対面とオンラインのハイブリッド方式で行われました。国内参加チームは6チーム。海外参加チームは13か国19チーム。モロッコ、フィリピン、ルーマニア、ポーランド、タジキスタン、ウガンダ、モンゴル、トリニダード・トバゴなどの国々からの参加でした。



▲フィリピンチームとの試合後の記念撮影



▲世界大会の様子